

私たちの町 三石台

三石小学校・阪本 大樹

1. はじめに

三石小学校の児童は、地域外に進学する児童が多い。そのため、自分達の住んでいる町・三石台に関わる機会が少なくなる。自分たちの住んでいる町に関心を向けるために、社会科で学習した福祉と関連させながら町を見直すことで、より自分たちの町に関心を持てると考えた。

2. 単元の目標

知識・技能

身体が不自由な方や高齢の方の生活の苦勞に気づき、活動に活かすことができる。

思考・判断・表現

町の様子を客観的に捉え、課題を見つけることができる。

主体的に学習に取り組む態度

福祉を通して三石台に関心を持ち、三石台のより良くするために進んで関わるすることができる。

3. 単元について

(1) 教材観

この単元では三石台を様々な体験活動を通して、現状と課題を見つけ、改善すべき点を提案、実行するものである。児童たちは2年生の生活科で町探検をしている。また3年生の社会科では商業施設の見学を行っている。この単元では福祉の視点から三石台を見直していく。

三石台は地形上傾斜が多く、そのため階段やスロープが多い地域である。大きい駅も校区内にあり様々な人が往来する。保育園などの乳幼児のための施設は存在するが、老人ホームといった高齢者のための施設がない。しかし、三石台ができてから約30年がたち高齢化が進んでいる。

三石小学校から駅までは歩者専用の道路がある。そのため車道を一切通ることなく行くことができる。しかし、その間には坂、階段といった障害が多く、車椅子や高齢者にとっては移動しにくい道となっている。児童たちにはそれらの認識が薄いため、車いすや老人、盲目体験をもとに認識を改めることによって、多面的に物事を把握する力の育成につなげていきたい。

(2) 児童観

子ども達は学習意欲が高く、また自身の疑問に対して積極的に調べたり行動したりすることができる。一学期の防災についての学習では、自分達で調べたことを地域の人やクラスみんなに発表することができた。

二学期には社会科の授業で福祉のことについて学習している。しかし、学習の知識が自分たちの身近な生活に関係していることを実感を持つことができていない。

またアンケートの結果から子ども達は三石台にあまり関心を抱いていないことがわかった。そのため、この教材を通して、三石台にもっと関心を向けさせたい。

(3) 指導観

最初に、社会科で学習した福祉の視点から三石台の道路や坂の様子を再確認させる。その後、車いすや、盲目、老人体験をし、実際にその状態で三石台を移動する。それによって、普段の生活ではなかなか気づかないちょっとした段差や坂道の移動の困難さを実感させる。

次に体験から、三石台が本当にすべての住民が住みやすい町かを考えさせる。坂道や段差、階段、点字ブロック、スロープの位置などを地図にまとめながら共有する。児童たちに三石台の良い点や改善すべき点を考えさせる。

最後によりよい三石台にするために、今自分たちにできることを考えさせる。点字ブロックをふさがない等の啓発ポスターの作成や回覧板で注意を促すなど、児童たちが実際に行動に移していけるように促す。また、普段の生活の中でも自分たちが考えたことを実践できるように取り組んでいく。

(4) ESD の観点

①身につけさせたい ESD の観点

公平性：自分達だけでなく、三石台には様々な住民が生活する場であることに気づく。

責任性：三石台の一員として、より良くするために自分たちの考えを発信していく。

②養いたい価値観

互いの人権を尊重する：

様々な立場の人たちが生活していることを認識し、お互いを尊重する価値観を育てる。

③養いたい能力

システムズ・シンキング

様々な体験を通して、多様な立場の人の視点で物事を考えていく力を身につける。

4. 評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活と結びつけながら体験活動を行うことができる。	三石台の課題を見つけ、改善方法を提案することができる。	自分たちが考えた三石台を良くする行動を、意欲的に行うことができる。

5. 単元展開の概要 (全 14 時間)

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
1 福祉の視点から三石台について、見直す。	今までに学習した福祉のことや、町探検で学んだことを思い出させる。	◇三石台の現状を考えようとしている。〈思・判・表〉

2～5

福祉で学習した人たちの立場を体験する。

- ・車いす体験
- ・盲目体験
- ・老人体験

体育館で行う。
安全に留意させる。

◇様々な立場の人の様子を実感している。〈知・技〉



体育館での車いす体験

6～7

実際に体験したことを学校周辺の公道で行う。

学校外で行うので、ルール、マナーの徹底を行う。

◇生活における困難さを実感できる。〈知・技〉



学校周辺の歩道での車椅子体験

8

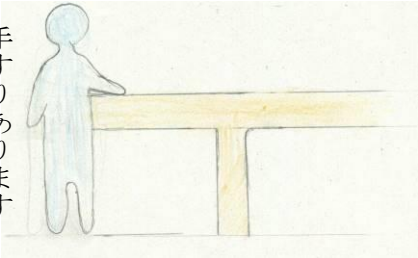

体験から気づいたことを出し合い、クラスで共有していく。

三石台の地図に子ども達が見つけたこと、気になったことを書き込み、共有しやすくする。

◇感じた事を積極的に発表し、伝えることができる。〈知・技〉



三石台の危険箇所をまとめた地図

<p>9</p> <p>三石台をより良くするために、自分たちにできることはないか考える。</p> <p>10～14</p> <p>学習したことをもとに、三石台をより良くしていく考えを地域の人達に発信していく。 (ピクトサインの作成・設置)</p>	<p>今までの体験や学習したことを元に、自分たちの生活を見直す機会を作る。</p> <p>学習したことから説得力をもたせられるように留意する。 自分たちの考えを継続するように指導を行う。</p>	<p>◇自分にできることを考え、まとめることができる。〈思・判・表〉</p> <p>◇自分たちの考えに責任を持ち、実行することができる。 〈主〉</p>
<p style="text-align: center;">児童たちが作ったピクトサイン</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%;">手すり あり ます</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: -40px; top: 50%;">段差 注意</p> </div> </div>		

6. 成果と課題

- ・導入段階で行った「福祉の視点から三石台を見直す」では、なかなか意見が出てこなかった。しかし、車いすや老人体験 を行った後、再度問い直すと様々な意見が飛び交った。このことから多面的に物事を捉える機会になったと考える。
- ・三石台の良いところ、改善するところを細かく見つけることができた。また、それらに対して具体的な改善方法を出すこともできた。
- ・車いす、老人、盲目の三種類の体験を行い、それぞれの視点に立って考えることができた。また、「ベビーカーなら通れるかな」「耳の聞こえない人の立場だとどうだろう」といった体験していない視点に立つこともできた。
- ・様々な提案が挙がったが、実際に実行できるものは少なかった。児童たちの力で実行できるものには限りがあるため、そのなかでできることをもっと考えさせる必要があった。
- ・児童たちの思考を深めるために、ゲストティーチャーの話聞くなど体験と 実生活をさらに結びつけるような活動を取り入れたほうがよかった。
- ・児童達はピクトサインを頑張って作っていた。そんななかでも、文字を使わずに見る人にわかりやすく伝えるのが難しく、いきなり地域に設置するのは厳しかった。校内で設置して様子を見るようにしようと思うが、もう少し課題の難易度を考える必要があった。
- ・同時期に道徳科「思いやり・親切」項目の『車いすでの経験から』を行った。児童達は自らの経験かと関連させて、「こんな時自分ならどうする」と自らの行動を考えることができた。他教科と関連させることで、さらに広い学びにつながると改めて感じる事ができた。